

## ●横浜市、新バスシステム導入へ 五輪までに都心臨海部の回遊性向上 …2月20日付 神奈川新聞より

都心臨海部の回遊性向上に向け、LRT(次世代型路面電車)など新たな交通システムの導入を検討している横浜市は、東京オリンピックが開催される2020年までに接続バスなどを活用した高度化バスシステム「(仮称)ヨコハスマートバスシステム」を導入することを決めた。LRTについては引き続き検討を進め、将来的には同システム、既存バス路線などとのベストミックスを目指す。市によると、横浜駅からみなとみらい21(MM21)地区、関内駅、山下ふ頭周辺にかけての都心臨海部には、JR線やみなとみらい線など鉄道路線やバス路線網が形成されているが、水際線沿いや駅から水際線方向への公共交通が少ない。20年までの整備が予定されている新市庁舎や山下ふ頭再開発、MM21地区でのMICE(国際会議などの総称)機能強化などさまざまな開発計画を踏まえ、市民や観光客の回遊性・利便性の向上を目指して段階的に新たな交通システムを導入する方針を決めた。

20年までに先行導入する同システムでは、接続バスや環境に優しい燃料電池バスの活用を検討。接続バスは車両デザインの工夫などでシンボル性を高めるほか、従来の路線バスよりもサービスレベルの向上を図る。専用走行レーンや優先信号、バス停のバリアフリーなどを検討する考えだ。LRTは中長期的に検討するとしているが、「現在の自動車交通量では既存の車線を減らしてLRT専用軌道を確保することはできない」と担当者。周辺に車両基地が必要となる上、景観を考慮すると開発途上の架線レス車両の導入検討が必要に

なってくるという。市の試算では、接続バスを活用した同システムは採算が十分取れるレベルの需要が見込めるとしており、市都市整備局の担当者は「デザイン性や定時性、利便性、快適性を高めた魅力ある接続バスの導入を目指す」と話している。(神奈川新聞・石尾正大記者)

## ●横浜市、新たな交通システムの検討に2,000万円を計上！

横浜市は2016年度の都心臨海部における新たな交通システムの検討[都心臨海部の回遊性向上、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通システム(LRTを含む)の導入を検討]に2,000万円の予算案を計上しました(2月、3月の市議会で審議)。14年度が750万円、15年度が3,000万円でしたので、15年度より1,000万円の減額になった訳です。神奈川新聞の記事には2020年の東京オリンピックまでに新バスシステムを先行して導入することを決め、LRTの導入には課題が多いとして慎重な意見が載っていました。担当者は「現在の自動車交通量では既存の車線を減らしてLRT専用軌道を確保することは出来ない」とコメントしているようですが、自動車交通に頼らないために公共交通の導入を進めることが、今後求められる交通政策であるべきではないでしょうか。引き続き検討する調査費2,000万円がどう使われるのか私たちは注視していきます。

(報告：清水康二)

協力していただけますか。横浜にLRTを走らせるためにあなたにできることは？各チームの活動は「走らせる会」と「横浜の公共交通活性化をめざす会」が共同して行っています。企画チームの会合は、毎月第4水曜日に県民サポートセンター12Fで19時から開催しています。

### ●事務局

- 渉外関係**  
■横浜市役所担当部局との意見交換会  
■横浜カーフリーデーへの参加  
■人と環境にやさしい交通をめざす全国大会への参加・協力
- 組織関係**  
■会の運営  
■会員の学習 情報提供  
最新情報 最新技術 関連法規など収集  
■会員拡大

### ●フォーラム広報チーム

- フォーラムによる啓発  
■夏のLRTフォーラムを開催  
■冬の公共交通フォーラムを開催  
■商工会、まちづくり団体、企業、行政などへのPR活動  
■計画路線沿線の商店街、自治会・町内会などへの出前説明会の実施  
■定期刊行物による広報  
・ブログの更新  
・年2回のニュース発行

### ●企画チーム

- 計画路線の検討  
■LRT問答集(Q&A集)など資料・宣伝ツールの作成  
■アンケートのまとめや実施  
■事業運営形態や採算性の検討  
■関連研究や知識の提供・共有化

### ●絵本プロジェクトチーム

- 日本初のLRTの絵本の販売  
「子ねことふしぎな電車」無料進呈中  
ご希望の方は、  
lrt\_ehon@yahoo.co.jp  
またはFax045-250-5632

### 【編集後記】

2月20日付け神奈川新聞18面の記事によれば、横浜市は都心臨海部の回遊性向上に向け2020年までに接続バスなどを活用した高度化バスシステムを導入することを決めたとされています。LRTについては引き続き検討するとしているものの、担当者の声として、現在の自動車交通量では既存の車線を減らしてLRT専用軌道を確保する事は出来ないと書かれています。他からの情報も合わせて考えると、横浜市には現時点でLRTを導入する意図は無いと思われ、残念な状況です。しかし可能性が無くなった訳ではありません。まずは横浜市がこの2年間にいった調査の結果を公表し、市民と行政、関係者が課題を共有した上で検討や議論を出来るようにして欲しいと思います。また1月30日の公共交通フォーラムで荒川副市長が話された通り、2019年には宇都宮市でLRTが開業する事になっていて、横浜での実現に向けた追い風になる事が期待されます。これからも時々状況の踏まえつつ、諦めずに活動を続けていきたいです。(理事長：栗原 正明)



特定非営利活動法人  
横浜にLRTを走らせる会  
〒221-0835 横浜市  
神奈川区鶴屋町2-24-2  
かながわ県民センター内  
レターケース304  
TEL:09038016142  
FAX:045-433-1415  
yokohama-lrt@nifty.com

http://lrt.cocolog-nifty.com/yokohama/

# 2016冬公共交通フォーラムを開催しました！ ～まちづくりにおける回遊性の向上とその効果を考える～

- 日時：1月30日(土)午後1:30～4:45
- 会場：横浜みなと博物館・訓練センター第1教室
- 第1部 基調講演1  
「LRTは街に人を呼び込めるか」  
報告1 「横浜都心臨海部の再生と新たな魅力づくり」  
報告2 「ホテルから見た、観光客の回遊性」  
報告3 「『歩くまち・京都』の推進」および「四条通歩道拡幅事業について」
- 山口 雅直氏(京都市都市計画局歩くまち京都推進室担当部長)  
特別講演 「宇都宮市におけるLRT導入計画」
- 荒川 辰雄氏(宇都宮市副市長)

※このフォーラムの様子はYOUTUBEで見ることができます。  
「2016冬公共交通フォーラム」で検索。

1月30日(土)午後、「横浜の公共交通活性化をめざす会」(以下「めざす会」と「横浜にLRTを走らせる会」)の共催で、「2016冬公共交通フォーラム“まちづくりにおける回遊性の向上とその効果を考える”」が桜木町の横浜みなと博物館で開かれ、98名の参加者が集まりました。今回は、いつにも増して各界でご活躍の方々が講師として揃っていて、また、参加者も交通まちづくりやLRT(次世代型路面電車)に関連した業務に携わっている方々も多く見受けられ、今回のテーマに関心が高まっていることを実感しました。

基調講演では、関西大学経済学部の宇都宮浄人教授が、



「LRTは街に人を呼び込めるか」と題して、5つの視点①LRTとは②LRTは魅力的か③LRTは人の動きを変えるのか④国内外の動き⑤おわりに～横浜の課題～、を豊富な写真と動画を使って分かりやすく説明され印象的でした。特に最近、LRTと共に日本でも導入が検討されているBRT(バスラピッドトランジット)と比較しながら、その違いを詳しく説明してLRTの良さ・優位性を強調されました。更に、イギリス・クロイドンでは、LRTの開業によって自家用車利用が減少し、中心部の車両通行量が14%減少したことやマンチェスターでも同様のことが起こったこと、フランス・ストラズブルでは、マイカーによる渋滞は減少し、便利な公共交通により中心市街地への来客が増加し街が活性化、フランス全土のLRT(トラム)導入都市では、公共交通の利用者が増加しているとのデータが示されました。

最後に横浜市中心部に設けられている市街地駐車場の高い建設コストをLRTの建設コストと比較しながら、LRTはキロ当たり20～30億円の建設費で、街の賑わいの創出や外出促進で健康増進になることなどで、LRTは小さな投資で大きな効果が期待できることを強調されました。

続いて、横浜商工会議所副会頭であり崎陽軒の代表取締役社長である野並直文氏は、横浜商工会議所の副会頭の立場で、「横浜都心臨海部の再生と魅力づくり」と題して、横浜の新たな成長戦略として、観光、MICE(国際会議場・展示会場など)振興の重要性から横浜観光の(次ページに続く)